

経済安全保障をめぐるいくつかの論点について

田中明彦

2021 年 12 月 1 日

1. いかなる安全保障か？

- 安全保障の 3 つの次元（脅威、対象、手段）
  - 古典的な国家安全保障—軍事的脅威から領土・領海を軍事力で守る
  - 総合安全保障（大平研究会）—さまざまな脅威から国民生活を総合的手段で守る
  - 経済安全保障（1970 年代）—さまざまな脅威から日本経済を非軍事手段で守る（経済の安全保障）
  - 「守る」= 脅威の発生確率を下げつつ、脅威が発現したとき損害を最小化すること
- 最近議論されるようになった経済安全保障とは？
  - 経済的手段による脅威から日本の国益（独立と生存及び繁栄）を非軍事手段で守る（防衛的概念）
  - economic statecraft（経済政略）や weaponization of economic interdependence（経済相互依存の武器化）（攻勢的概念）との関係
  - 経済安全保障戦略として、攻勢的概念も包含する可能性あり

2. 経済安全保障を実現する手段とは？

- 戦略的自律性
  - 「わが国の国民生活及び社会経済活動の維持に不可欠な基盤を強靱化することにより、いかなる状況の下でも他国に過度に依存することなく、国民生活と正常な経済運営というわが国の安全保障の目的を実現すること」（自民党）
  - 供給途絶による経済への影響の高い分野（チョークポイント）を最小化すること
  - 国内生産確保・備蓄・信頼に足る他の供給源の確保など
  - 脆弱性（チョークポイント）の把握が不可欠
- 戦略的不可欠性
  - 「国際社会全体の産業構造の中で、わが国の存在が国際社会にとって不可欠であるような分野を戦略的に拡大していくことにより、わが国の長期的・持続的な繁栄及び国家安全保障を確保すること」
  - 他国の戦略的自律性に影響を与えうる分野を数多く持つこと
  - 戦略的不可欠性を持つことによって、他国の自国に対する経済脅威の発現確率を低下させる
  - 他国の脆弱性ならびに世界的な技術競争の実態の把握が不可欠

### 3. 具体的な課題は何か

- 情報収集分析
  - 戦略的自律性・戦略的不可欠性を判断する情報収集能力をどのように確保するか。
  - 戦略的自律性・戦略的不可欠性を判断する方法論をどのように確立するか。
  - 戦略的自律性・戦略的不可欠性は誰が判断するか。
  
- 不健全な産業政策とならないか
  - 各省庁の現在実施している施策がすべて「経済安全保障」で正当化されないか
  - 政策決定者のペットプロジェクトのみが重視されないか
  - 戦略的不可欠性を到底持ち得ない技術への無駄な投資がおこなわれないか
  
- 技術開発・国際協力を阻害しないか
  - 自由な研究・技術開発への制約を強めすぎないか
  - 国際的な研究・技術開発協調を阻害しないか